

坂  
口  
満  
宏  
教  
授

略  
年  
譜  
・  
業  
績  
一  
覧





坂口満宏 教授



# 坂口満宏教授 略年譜・業績一覧

## 【学歴】

- 一九五八年 五月 北海道に生まれる
- 一九七七年 三月 北海道立札幌東高等学校卒業
- 一九七七年 四月 同志社大学文学部文化学専攻入学
- 一九八一年 三月 同大学卒業
- 一九八一年 四月 同志社大学大学院文学研究科文化史学専攻 博士前期課程入学
- 一九八四年 三月 同大学大学院修了
- 一九八四年 四月 同志社大学大学院文学研究科文化史学専攻 博士後期課程進修
- 一九九〇年 三月 同志社大学大学院単位取得満期退学
- 二〇〇三年 二月 同志社大学・博士（文化史学）

## 【京都女子大学での職歴】

- 一九九七年 四月 京都女子大学・文学部助教（二〇〇三年三月まで）
- 二〇〇三年 四月 京都女子大学・文学部教授
- 二〇〇四年 四月 ペンシルベニア大学（Center for East Asian Studies）にて在外研究・客員研究員（二〇〇五年三月まで）
- 二〇一三年 四月 京都女子大学 大学院文学研究科委員長（二〇一五年三月まで）
- 二〇一八年 四月 京都女子大学 学生部長（二〇二一年三月まで）
- 二〇二二年 四月 京都女子大学 文学部長（二〇二四年三月まで）
- 二〇二四年 三月 京都女子大学定年退職

## 【非常勤歴と主な担当科目】

- 一九八三年 四月 同志社大学人文科学研究所研究・第1研究会補助者（一九八九年三月まで）

- 一九八九年 四月 梅花短期大学・一般教育科目「歴史」担当（一九九七年三月まで）
- 一九九一年 四月 阪南大学・教職科目「日本史Ⅱ」「地理歴史科教育法」担当（一九九七年三月まで）
- 一九九三年 四月 相愛大学・人文学部英米文化学科専門科目「文化交流史」「比較文化講読Ⅰ・Ⅱ」「比較文化演習Ⅰ・Ⅱ」担当（一九九七年三月まで）
- 一九九三年 四月 同志社大学・文学部専門科目「英書講読A（史）」担当（一九九七年三月まで）
- 一九九九年 四月 立命館大学・文学部専門科目「地域と移動Ⅰ・Ⅱ」担当（二〇〇一年三月まで）
- 二〇〇一年 四月 同志社女子大学・教養科目「文化交流史」担当（二〇〇四年三月まで）
- 二〇〇六年 四月 立命館大学大学院文学研究科・「人文科学の主要問題Ⅰ（前期）」分担（二〇〇七年九月まで）
- 二〇〇六年 四月 同志社大学・文学部専門科目「文化史特論（3）（4）」担当（二〇〇八年三月まで）
- 二〇〇八年 四月 京都府立大学・文学部専門科目「日本文化史研究Ⅰ・Ⅱ」担当（二〇一〇年三月まで）
- 二〇〇八年 九月 京都産業大学・文化学部専門科目「移民史A・B」担当（二〇一〇年三月まで）
- 二〇一一年 四月 大学コンソーシアム京都・e京都市ラーニングシステムによる提供科目「日本史特殊ⅠB 京都の近代」担当（二〇一四年三月まで）
- 二〇一八年 四月 同志社大学・文学部専門科目「日本文化史演習Ⅱ（1）（2）（史2年）」担当（二〇二〇年三月まで）

## 【学会役員歴】

一九九七年	二月	日本史研究会 総務委員長（二〇〇一年一月まで）
二〇〇二年	四月	日本移民学会 事務局長（二〇〇四年三月まで）
二〇一〇年	四月	日本移民学会 事務局長（二〇一四年三月まで）
二〇一〇年	二月	文化史学会評議委員（現在に至る）
二〇一三年	一月	国際いけ花学会理事（二〇二二年三月まで）
二〇一五年	四月	日本移民学会 事務局長（二〇一六年六月まで）
二〇一五年	五月	京都民科歴史部会 代表委員（二〇一七年五月まで）
二〇一五年	五月	マイグレーション研究会会長（現在に至る）
二〇一五年	一月	歴史科学協議会理事（二〇一七年一月まで）
二〇一七年	六月	日本移民学会理事（現在に至る）
二〇一九年	四月	国立歴史民俗博物館 展示プロジェクト「ハワイ・日本人移民の一五〇年と憧れの島のなりたち」委員（二〇一九年一〇月まで）
二〇二〇年	六月	日本移民学会会長（二〇二二年六月まで）

## 業績 一 覧

## 【単著】

- 『日本人アメリカ移民史』 不二出版、二〇〇一年一月。  
『日本人移民の福祉活動と定住に関する基礎的研究―第二次大戦前のカナダ・アメリカ・ブラジルを事例に―』 平成二二年度～平成一四年度科学研究費報告書、二〇〇三年三月。  
『北米日系移民の社会史』 六花出版、二〇二三年一月。

## 【編纂した資料集】

- 『近代日本「平和運動」資料集成』 全五巻、付録、別冊、不二出版、二〇〇五年一〇月。  
『日本移民協会報告』 全二巻、不二出版、二〇〇六年九月。  
京都高等女学校・京都裁縫女学校 復刻版『校友会報』 全一二冊、京都女子大学宗教・文化研究所、二〇二三年一月。

## 【テーマ別著作一覧】

## A 排耶論・日本人キリスト教団体史の研究

- 『幕末維新期の排耶論』（『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究 所、三七号、一九八九年三月、一三三～一五二頁。同時に杉井六郎先生退職記念事業会編『近代日本社会とキリスト教』同朋舎出版、一九八九年三月、一三三～一五二頁に収録される）。  
『一八〇年代・仏教系の反キリスト教運動―排耶書の普及と結社・講談会活動―』（同志社大学人文科学研究所編『排耶論の研究』教文館、一九八九年七月、一一九～一五七頁）。  
『山室軍平―万国本営への旅』（同志社大学人文科学研究所編『山室軍平の研究』同朋舎出版、一九九一年三月、三三六～三六八頁）。  
『排日問題と太平洋沿岸日本人キリスト教団』（同志社大学人文科学研究所編『北米日本人キリスト教運動史』PMC出版、一九九一年二月、二二一～二八七頁）。  
『アメリカにおける排日問題と日本人キリスト教団体』（宮本盛太郎、関静夫、

小西豊治、坂口満宏著『近代日本政治思想史発掘―平和・キリスト教・国家』風行社、一九九三年三月、八九―一〇五頁。

「日本人移民と社会事業―アメリカ救世軍日本人部の活動を中心に―」(『渋沢研究』渋沢研究会、六号、一九九三年一〇月、一七―四〇頁)。

「日本人移民の「ユートピア」―アメリカ救世軍日本人部の社会事業館―」(『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、三三卷三号、二〇二二年二月、一五一―一六七頁)。

「資料・アメリカ西北部日本人移民年表(1)―『大北日報』にみる日本人キリスト教会―」(『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究所、三四号、一九八六年三月、一七九―二四〇頁)。

「資料・アメリカ西北部日本人移民年表(2)―『大北日報』にみる日本人キリスト教会―」(『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究所、三九号、一九九一年三月、一二八―一六四頁)。

「資料・アメリカ西北部日本人移民年表(3)―『大北日報』にみる日本人キリスト教会―」(『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究所、四二号、一九九三年、一七三―二二二頁)。

**B 近代日本における平和運動史の研究**  
「国際協調型平和運動―『大日本平和協会』の活動とその史的位罫―」(『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究所、三三三号、一九八五年三月、一一五―一四二頁)。

「国際協調型平和運動」(宮本盛太郎、関静夫、小西豊治、坂口満宏著『近代日本政治思想史発掘―平和・キリスト教・国家』風行社、一九九三年三月、五四―八六頁)。

「近代日本「平和運動」資料集成・解題」(『近代日本「平和運動」資料集成解題・総目次・索引』不二出版、二〇〇五年一〇月、五―二五頁)。

「雑誌『平和』をめぐる人々―『日本平和会』の新史料とともに―」(『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編』京都女子大学大学院文学研究科、五号、二〇〇六年三月、一―三七頁)。

「懸賞問題答案平和雑誌」の原著『Prize Peace Tracts for Young People』(『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編』京都女子大学大学院

文学研究科、六号、二〇〇七年三月、一―一六頁)。

「雑誌『平和』の印刷人・久野宗熙のこと」(『北村透谷研究』北村透谷研究会、一八号、二〇〇七年六月、九―一七頁)。

「史料紹介・ジョージ・プレスウェイト書簡に見る日本平和会」(『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編』京都女子大学大学院文学研究科、八号、二〇〇九年三月、一―二六頁)。

「The Japan Peace Society and the British and American Quakers Who Supported It」(Edited by Linda H. Chance, Paul B. Reagan, and Tetsuko Toda, *Friendly Connections: Philadelphia and Japan since the Late Nineteenth Century*, Lexington Books, 2024, pp. 47-59)。

**C 日本人移民社会史の研究**

1 ハワイ

「二重国籍問題とハワイの日系アメリカ人」(『新しい歴史学のために』京都民科歴史部会、二〇七号、一九九二年七月、一三―二五頁)。

「ハワイとアメリカ本土西北部の日本語学校と『日本語讀本』」(復刻監修: Edward Mack 『米國加州教育局検定 日本語讀本 別冊解題』文生書院、二〇一四年七月、二九―三九頁)。

「京都女子高等専門学校で学んだハワイの日系人」(『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、三二卷一号、二〇一九年七月、九五―一〇九頁)。

2 カナダ

「The Japanese Clinic in Vancouver, 1932-1942」(『キリスト教社会問題研究』同志社大学人文科学研究所、四一号、一九九二年七月、九一―一〇三頁)。

「The New Canadian に見る戦中・戦後の日系カナダ人団体―一九四二―一九六七―」(立命館大学日系文化研究会編『戦後日系カナダ人の社会と文化』不二出版、二〇〇三年七月、一一―四〇頁)。

「日系カナダ人史研究の現在」(『PS Journal』日本図書センター、二〇〇四年春号、二頁)。

「バンクーバーの日本人健康相談所―その結核予防への取り組み(一九三二―

一九四二) (『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所) 三  
四巻一号、二〇二二年七月、四五〜五九頁)。

### 3 アメリカ本土

「シアトル初期の日本語新聞」(『東京経済大学人文自然科学論集』東京経済大学人文自然科学研究会、九二号、一九九二年一月、三九〜七〇頁)。

「在米日本人の「二重国籍問題」解決運動」太平洋沿岸日本人会協議会のとりにくみを中心に」(『ヒストリア』大阪歴史学会、一三八号、一九九三年一月、一〜二二頁)。

「移民のナショナルリズムと生活世界—シアトル日本人社会形成小史—」(『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、五巻五・六合併号、一九九四年二月、一〇一〜一二七頁)。

「北米の日本人移民と二つの国家—外国人土地法との闘いを中心に—」(『ヒストリア』大阪歴史学会、一四五号、一九九四年二月、八二〜一〇三頁)。

「一九二〇年代後半のシアトル日本人社会—シアトル小児園をめぐる一考察—」(『社会科学』同志社大学人文科学研究所、五五号、一九九五年七月、六七〜一〇三頁)。

「移民・国家・(忠誠心)—開戦前夜の在米日本人—」(『新しい歴史学のために』京都民科歴史部会、二三三号、一九九六年七月、一〜一二頁)。

「北米における日本人農業の展開と定住戦略—一九〇〇〜一九四二—」(『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、八巻五・六合併号、一九九七年三月、一一七〜一四〇頁)。

「日本人移民と〈国語〉教育」(『史窓』京都女子大学史学会、五五号、一九九八年三月、一九〜四二頁)。

「移民のアイデンティティと二つの国家—北米における日本人移民史研究序説—」(『日本史研究』日本史研究会、四二八号、一九九八年四月、一三四〜一六〇頁)。

「日本人会ネットワーク—北米日本人会の組織と活動を中心に—」(『史窓』京都女子大学史学会、五八号、二〇〇二年二月、八三〜九五頁)。

「帰米二世をめぐる断章—シアトル帰米日系市民協会の組織と活動を中心に—」(『移民研究年報』日本移民学会、七号、二〇〇一年三月、二三〜三九

頁)。

「ネットワークでつながる日本人移民社会」(ハルミ・ペフ編『日系アメリカ人の歩みと現在』人文書院、二〇〇二年九月、三七〜六八頁)。

「第三章 アメリカ合衆国への移民」(日本移民学会編『日本人と海外移民 移民の歴史・現状・展望』明石書店、二〇一八年四月、七五〜九七頁)。

「日本人移民(南北アメリカ)」(社会経済学史学会編『社会経済学事典』、丸善出版、二〇二二年六月、四五〇〜四五二頁)。

### 4 出移民

「日本の海外移民・略史」(『人権と部落問題』部落問題研究所、七五五号、二〇〇七年二月、六〜一頁)。

「誰が移民を送り出したのか—環太平洋における日本人の国際移動・概観—」(『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、二二巻四号、二〇一〇年三月、五三〜六六頁)。

「統計資料—一九三〇年代の広島県に在留した日系二世—」(『史窓』京都女子大学史学会、六八号、二〇一一年二月、九五〜一〇九頁)。

「戦後日本の移民問題」(『人権と部落問題』部落問題研究所、八一一号、二〇一一年二月、六〜一五頁)。

「第一章 出移民の記憶」(日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房、二〇一一年六月、八〇〜一〇三頁)。

「出移民研究の課題と方法—1980年代の福島県を中心に—」(『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要』史学編『京都女子大学大学院文学研究科、一一号、二〇一二年三月、一一〜二六頁)。

「近代日本における移植民政策」(編集代表吉原和男、編者蘭信三他『人の移動事典』日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版、二〇一三年一月、一六〜一七頁)。

「日本におけるブラジル国策移民事業の特質—熊本県と北海道を事例に—」(『史林』史学研究会、九七巻一号、二〇一四年一月、一三三〜一七〇頁)。

「第三章 誰が移民を送り出したのか—環太平洋における日本人の国際移動・概観—」(米山裕・河原典史編著『日本人の国際移動と太平洋世界—日系移民の近現代史』文理閣、二〇一五年四月、七二〜九一頁)。

「伯刺西爾行移民名簿」を用いた出移民研究の方法について」（『マイグレーション研究会報』マイグレーション研究会、一一号、二〇一六年五月、九〜一〇頁）。

「第九章 一九三〇年代の福島県に在留した日系二世」（根川幸男・井上章一編『越境と連動の日系移民教育史』複数文化体験の視座）ミネルヴァ書房、二〇一六年六月、四一三〜四三〇頁）。

「災害・移民・地域―福島県の事例を通して―」（『歴史学フォーラム二〇一八の記録 民衆と国家の生き残り方―微視と巨視の歴史学』歴史学フォーラム二〇一八実行委員会編、二〇一九年八月、一一〜三三頁）。

「福島県における市町村別ブラジル移民の輩出地とその変遷―一九三〇年代の国策移民と一九五〇年代の戦後移住―」（『史窓』京都女子大学史学会、七八号、二〇二一年三月、二五〜四六頁）。

5 日系文学

「資料・翁久允所蔵資料目録」（山本岩夫、松原美恵、佐々木敏二、中郷美生子、下村雄紀との共著、『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、五巻五・六合併号、一九九四年二月、主として「D書簡」担当、三三三〜三四九頁）。

「資料・翁久允関係書簡補遺」（山本岩夫、松原美恵、佐々木敏二、中郷美生子、下村雄紀との共著、『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所、七巻一号、一九九五年九月、主として「翁久允関係書簡補遺」担当、四一〜四八頁）。

「日系文学研究への期待―日本近代史・移民史研究者の立場から―」（『移民研究年報』日本移民学会、六号、一九九九年一二月、九三〜九四頁）。

6 移民史研究の視点と方法

「在外居留地・居留民研究の現在」（『前近代東アジア海洋圏の比較史的研究―日・中・朝三国の政治・社会的連環―』京都女子大学、二〇〇三年三月、平成一二年度〜平成一四年度科学研究費補助金・基盤研究B・研究成果報告書、一八七〜二〇一頁）。

「在外居留地・居留民研究の現在」（『京都女子大学東洋史研究室編『東アジア

海洋圏の史的的研究』京都女子大学研究叢刊三九、二〇〇三年九月、三五〜三七三頁）。

「アメリカに渡った日本人移民に関する歴史研究の現在―日本人アメリカ移民史―補論―」（『史窓』京都女子大学史学会、六〇号、二〇〇三年二月、四三〜六二頁）。

「移民史研究の射程」（『日本史研究』日本史研究会、五〇〇号、二〇〇四年四月、一三一〜一五一頁）。

「第一章 新しい移民研究にむけて」（米山裕／河原典史編『日系人の経験と国際移動―在外日本人・移民の近現代史―』人文書院、二〇〇七年三月、二二九〜二六一頁）。

「小特集 日本移民学会創立30周年記念シンポジウム 日本移民学会の未来―移民研究は如何に現代の課題に貢献できるのか―」（『移民研究年報』日本移民学会、二八号、二〇二二年六月、蘭信三、竹沢泰子、中牧弘允、浅香幸枝、アンジェロ・イシの共著、九一〜九四、一一五〜一七頁）。

D 京都関係

「二七 近代における豊臣秀吉の顕彰地」（仁木宏・山田邦和編著『歴史家が案内する京都』文理閣、二〇一六年五月、二二六〜二四一頁）。

「伝えたい記憶 写真に見る京都・馬町空襲被害地図」（京都女子大学文学部史学科日本史演習・坂口ゼミ、二〇一八年一月）

「学生たちと作り上げた『伝えたい記憶 写真に見る京都・馬町空襲被害地図』（『ひろば：京都の教育』京都教育センター「ひろば：京都の教育」刊行委員会、一九四号、二〇一八年五月、四四〜四九頁）。

「京都の馬町空襲―学生とともに調べたことなど―」（『蓮華―仏教文化講座たより』蓮華王院三十三間堂、九五号、二〇一八年九月、二八〜三一頁）。

「増補改訂版 伝えたい記憶 写真に見る京都・馬町空襲被害地図」（京都女子大学文学部史学科日本史演習・坂口ゼミ、二〇一九年一月）

「復刻版『校友会報』の解説―京都高等学校の設立と学科の変遷、『校友会報』の誌面構成を中心に―」（『校友会報』別冊総目次・解説』京都女子大学宗教・文化研究所、二〇二三年一月、七五〜九八頁）。

「新発見史料・京都高等学校『校友会報』の複製・総目次の作成とその公開

—京都高等女学校の設立と学科の変遷、『校友会報』の誌面構成について—  
 —(『研究紀要』京都女子大学宗教・文化研究所、二〇二四年三月)

### 【書評・新刊紹介】

書評・児玉正昭著『日本移民史研究序説』(『日本史研究』三八四号、一九九四年八月、八四～九一頁)。

新刊紹介・間宮國夫著『西原清東研究』(『日本史研究』四〇二号、一九九六年二月)。

新刊紹介・浅川晃広著『在日外国人と帰化制度』(『移民研究年報』一一号、二〇〇五年三月、一五七～一五八頁)。

書評・イゴリ R. サヴェリエフ著『移民と国家』(『移民研究年報』一二号、二〇〇六年三月、一九八～二〇一頁)。

新刊紹介・山本義彦著『清沢洌—その多元主義と平和思想の形成』(『移民研究年報』一三号、二〇〇七年三月、一五五～一五六頁)。

新刊紹介・坂本悠一・木村健二著『近代植民地都市 釜山』(『移民研究年報』一四号、二〇〇八年三月、一一九頁)。

書評・小川真和子著『海の民のハワイ—ハワイの水産業を開拓した日本人の社会史』(『移民研究年報』二四号、二〇一八年六月、一〇九～一一二頁)。

### 【主な学会発表】

「幕末・維新期の排耶論」(文化史学会一九八八年度大会、一九八八年二月)。

「二重国籍問題解決運動史—太平洋沿岸日本人会協議会のとりくみをめぐって—」(日本移民学会第一回大会、一九九一年一月)。

「北米の日本人移民と二つの国家—外国人土地法との闘いを中心に—」(大阪歴史学会大会・近代部会報告、一九九四年六月)。

「二世の日本語教育をめぐる一世の彷徨」(日本移民学会第六回大会・シンポジウム「日系アメリカ人と教育」報告、一九九六年二月)。

「移民のアイデンティティと二つの国家—北米における日本人移民史研究序説—」(日本史研究会大会・近現代史部会報告、一九九七年一月)。

「日系文学研究への期待—日本近代史・移民史研究者の立場から—」(日本移

民学会第九回大会・パネルディスカッションB「日系文学と移民研究」報告、一九九九年九月)。

「日系移民のネットワーク—定着の時代」(国立民族学博物館、イトウ・ファウンデーションUSA主催 国際シンポジウム『グローバル化のなかの日系アメリカ』報告、一九九九年九月)。

「移民史研究の射程」(洛北史学会第五回大会、二〇〇三年六月)。

「誰が移民を送り出したのか」(日本人の国際移動研究会・立命館大学国際文化研究所主催 国際シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」、二〇〇九年一月)。

「日系人」の絆と教育—ブラジルの事例から—(国際会議トランスナショナルな「日系人」の教育・言語・文化—過去から未来に向けて、二〇一一年三月)。

「日本における国策移民事業の特質—移民会社海外興業の取り組みをめぐって—」(史学研究会例会、二〇一三年四月)。

「地域の歴史に「人の移動」を位置づけるために」(細川班・根川班合同開催 共同研究会北南米大陸と帝国日本をめぐる日系人の教育と文化—複数地域の連動に注目して、二〇一四年三月)。

「Fukushima Prefecture and Overseas Migration」(2014 Association for Asian Studies Annual Conference, PANEL14 "Buried in Nuclear Ruins: Migration, Energy, and the Remaking of Fukushima in the Post-Imperial Asia-Pacific, March 2014)。

「アメリカ合衆国への移民」(HICA横浜・日本移民学会共同企画公開講座「日本人と海外移住」、二〇一四年四月)。

「伯利西爾行移民名簿」を用いた出移民研究の方法について」(マイグレーション研究会二〇一五年度一〇月例会、二〇一五年一〇月)。

「北米に渡った熊本県からの移民と郷里とのつながり」(アメリカ学会第五〇回年次大会・分科会「アジア系アメリカ研究」、二〇一六年六月)。

「名簿と地図から考える出移民の歴史」(近世史フォーラム十一月例会、二〇一六年一月)。

「共同研究「移民の衣食住」に関する先行研究について」(マイグレーション研究会二〇一六年度三月例会、二〇一七年三月)。

「共同研究「移民の衣食住」に関する先行研究について」(マイグレーション研究会二〇一六年度三月例会、二〇一七年三月)。

「共同研究「移民の衣食住」に関する先行研究について」(マイグレーション研究会二〇一六年度三月例会、二〇一七年三月)。

「馬町空襲の歴史を学び語り継ぐ取り組み」について」（平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築・メディア資料研究会合同研究会、二〇一八年三月）。

「京都の馬町空襲―学生とともに調べたことなど―」（妙法院門跡第五一六回仏教講座、二〇一八年五月）。

「災害・移民・地域―福島県の事例を通して―」（歴史学フォーラム二〇一八、二〇一八年九月）。

「京都女子高等専門学校で学んだハワイの日系人」（二〇一八年度立命館大学国際言語文化研究所連続講座「ハワイ日本人移民一五〇周年から考える」、二〇一八年一〇月）。

「出移民研究の課題と方法（パート2）：一九三〇年代～一九六〇年代の福島県を事例に」（マイグレーション研究会二〇一九年度五月例会、二〇一九年五月）。

「People Surrounding the “Japan Peace Society”: the British and American Quakers」(The 12th International Convention of Asia Scholars, Kyoto, Japan, Online (ICAS 12), Location10 “Quakers in Japan, 1885-2021: Education, Peace, and Public Service, August 2021)。

「バンクーバーの日本人健康相談所と結核予防への取り組み（一九三二～一九四二年）」（二〇二二年度立命館大学国際言語文化研究所連続講座 第二回講座「病」との接触―災厄を記憶する カナダの日本人移民社会における「病」―スペイン風邪・結核との闘い、二〇二二年一〇月）。

「京都・馬町空襲―学生たちと作った被害地図―」（京都府立京都学・歴史館主催 地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム「戦争の記憶を記録し、未来へ伝える」、二〇二二年二月）。

### 【その他】

「一九八五年度『第一二回歴史学入門講座』の記録」（『日本史研究』二七七号、一九八五年九月、一〇四～一〇七頁）。

「第三二回「建国記念の日」不承認二・一―京都府民のつとめ」の記録」（『日本史研究』四一八号、一九九七年六月、六五～七三頁）。

「私の人生を決定づけたCSの研究会」（『キリスト教社会問題研究』五〇号、

二〇〇一年一二月、一五〇～一五一頁）。

「藤縄先生の『最後の論説』とその『歴史意識』」（『史窓』五九号、二〇二二年二月、一一七～一一九頁）。

「杉井先生の業績と思い出」（『キリスト教社会問題研究』六一号、二〇一三年一月、七～九頁）。

### 京都女子大学宗教部『芥陀利華』掲載記事

「京女に学んだハワイの日系人」（『芥陀利華』二六三号、二〇〇三年一〇月、二頁）。

「豊国廟参道の石鳥居」（『芥陀利華』三〇八号、二〇一〇年一月、二頁）。

「京女への通学路 いまむかし ①～⑦」

①「豊国廟参道入口の石段」（『芥陀利華』三九三号、二〇二二年四月、一頁）。

②「一九一四年東山のふもとに新校舎できる」（『芥陀利華』三九四号、二〇二二年五月、一頁）。

③「一九四〇年東山三校の北門」（『芥陀利華』三九五号、二〇二二年六月、一頁）。

④「一九四五年京都・馬町空襲」（『芥陀利華』三九六号、二〇二二年九月、一頁）。

⑤「一九四九年京都女子大学の設立とその門柱」（『芥陀利華』三九七号、二〇二二年一〇月、一頁）。

⑥「一九六三年頃のB校舎建設予定地」（『芥陀利華』三九八号、二〇二二年二月、一頁）。

⑦「S校舎三階のステンドグラス」（『芥陀利華』三九九号、二〇二三年一月、一頁）。

「今よみがえる100年前の女学生 ①～⑦」

①「豊国廟参道入口の石段」（『芥陀利華』四〇〇号、二〇二三年四月、一頁）。

②「一九一四年東山のふもとに新校舎できる」（『芥陀利華』四〇一号、二〇二三年五月、一頁）。

③「一九一五年の学芸会と保護者会」（『芥陀利華』四〇二号、二〇二三年

六月、一頁)。

④ 「一九一七年バザーの収益を校舎の建築費に寄贈」(『芬陀利華』四〇三  
号、二〇二三年九月、一頁)。

⑤ 「卒業アルバムと『校友会報』からポートフォリオを作る」(『芬陀利華』  
四〇四号、二〇二三年一〇月、一頁)。

⑥ 「一九二〇年 女専開校してキャンパスの原型できあがる」(『芬陀利華』  
四〇五号、二〇二三年二月、一頁)。

⑦ 「藤の花はどこへ行った」(『芬陀利華』四〇六号、二〇二四年一月、一  
頁)。

「七九年前、京都にも空襲がありました―これまで語り継いできたこと、これ  
からのこと―」(『芬陀利華』四〇六号、二〇二四年一月、二頁)。

【未公刊】

「阪谷素小論」(同志社大学文学部卒業論文、一九八〇年二月)

「西村茂樹の啓蒙思想―未公刊資料による再検討―」(同志社大学大学院文学  
研究科修士論文、一九八四年一月)